336-C地区

広島城北、広島佐東、広島西北ライオンズクラブ

休耕田を利用して作られた米を西アフリカ・マリ共和国へ

10月17日、広島県広島市安佐南区の上吉山集会所前には子どもたちを含む多くの人が集まっていた。この日は毎年実施されている海外援助米の収穫祭だ。安佐南区では毎年、ここで収穫された米を西アフリカにあるマリ共和国に送っている。

この事業は1999年、安佐南区が休耕田の活用を目的に始めたもの。今回で17回目だ。援助米を植える休耕田は2、3年で変更する。こうしてローテーションすることで、複数の休耕田を寝かせたままにしない工夫がなされている。

区内をメーンに活動している広島城北ライオンズクラブ（東功二会長／41人）、広島佐東ライオンズクラブ（藤岡満会長／30人）、広島西北ライオンズクラブ（國保典昭会長／30人）はこのプロジェクトが立ち上がった頃から関わっている。元々、ライオンズは区民祭りや交流駅伝に参加したり、安川の清掃作業に従事したりしており、区とのつながりが強かった。こうして第1回目からライオンズは資金提供と当日運営の手伝いを担当し、この事業になくてはならない存在となっている。今年も運営委員会や田植えの準備会議に始まり、4月の田植え、7月の草刈りにも参加した。ライオンズ・メンバーを始めとした各人の努力のかいもあり、無事収穫の時を迎えることが出来た。

この日は収穫祭にもってこいの天気。澄みきった青空の下、200人を超える人が上吉山集会所へと集まってきた。収穫祭では毎回、稲刈りの他にもサイドイベントがいくつか用意されている。今回はサツマイモ掘り。ただ掘るだけではなく、一番重いサツマイモを掘り当てた人に賞品が出るということもあって、皆楽しそうに掘っていた。

その後はいよいよ稲刈り。田植えや草刈りに参加した人も数多く来ていた。子どもたちも鎌を持ち、せっせと刈っていく。刈った稲は皆で運び、トラクターで脱穀する。ここで収穫された米は精米、袋詰めを経てマリ共和国に送られる予定だ。米の袋は子どもたちがイラストやメッセージを書き込んだものを使用する。この日も集会所の中では米袋に思い思いのイラストを書き込む子どもたちがいた。メッセージを書くために英語を学ぶ子どももおり、海外に目を向けるきっかけにもなっているという。

昼には新米の試食も兼ねて、おにぎりが振る舞われた。今回収穫された米はよしやま米と呼ばれるもの。もちもちした食感が特徴のおいしいお米だ。

3クラブは今後もこの事業に参加すると共に、より多くの区民に協力してもらえるよう努力を重ねていく。

（取材／井原一樹　撮影／内田明人）